

## 4. 女性研究者の裾野拡大

### 4-1. 女性研究者の裾野拡大セミナー

女性研究者の裾野拡大を図るため、平成22年度は全学に女性研究者の裾野拡大セミナーの開催を呼びかけ、理学部2回、農学部1回、人文学部1回、工学部1回の合計5回の女性研究者の裾野拡大セミナーを開催した。

学部によって大学生を対象とするセミナー、高校生を対象とするセミナーなど、セミナーの対象として呼びかけた層は様々であった。しかし、どのセミナーも各研究者の研究の内容に加え、研究者を志した動機や研究者としてのワークライフバランスの取り方など、研究の魅力の説明と研究者としてのライフスタイルについて学生に語る機会となった。セミナーには、合計300人以上の参加者があり、研究の魅力を伝える効果的な機会となった。各回の内容と結果は表の通りである。

セミナーを実施する上で、「女性研究者の」と題しているため、男性が参加を躊躇する面が見られ、このセミナーは男性も歓迎なのだということをもっと大々的に宣伝するべきだったとの反省点がみられたが、次年度は、女性の参加者を募ると共に、男子学生の参加も歓迎する旨をピアールしていく必要がありそうである。

女性研究者の裾野拡大のための  
ナノプランクトンに関する  
公開講座及びパネルディスカッション  
2010年9月7日(火) 17:30~  
山形テルサ アプローズ  
9月5日~10日にかけて国際的なナノプランクトンに関する学会  
International Nannoplankton Association (INA) が、アジア初の山形  
市で開催されます。  
今回、国際的な研究の第一線で活躍されている女性研究者や著名な  
研究者が山形市にやってきてるので、女性研究者たちの話が直接聞  
ける講演会を開きます。  
さらに、ナノプランクトンの研究の基本から発展までを通したパネ  
ルを用いて、研究の面白さなどにふれてみませんか。  
講演者：原田 尚美（海洋研究開発機構）  
富岡（森野）恭子（岡山大学）  
Denise Kulhanek (米国国立科学財団ボスドク)  
Emanuela Mattioli (リオン大学ーフランス)  
Paul Bown (ロンドン大学)  
原田博士を主席研究者  
とした海洋調査航海  
研究船中の  
富岡博士  
露頭を説明している女性研究者  
主催：INA事務局  
共催：山形大学男女共同参画推進室

女性研究者支援モデル育成（山形ワーク・ライフ・バランス・イノベーション）採択事業  
山形大学農学部・男女共同参画推進室共催 女性研究者裾野拡大セミナー in 農学部 part3  
大学院生に聞いてみよう!  
研究生活ってど～んな感じ?  
大学院って何?研究者になるには?  
そんな疑問を解決し、将来のキャリアビジョンを設計しよう!!  
日程 平成22年11月6日(土) 14時~16時20分  
会場 山形大学農学部301教室  
対象 農学部あるいは理系への進学を希望する高校生  
農学部学生(特に1~3学年)  
内容 第1部 農学部修士学生による  
「大学での研究生活ってどんな感じ!」 14時~15時10分  
湯川 由菜さん 「私の研究と「なぜ、大学院に進学しようと思ったのか?」」  
堀江 要太さん 「私の研究と「学会発表、発表って?」」  
齋藤 明日香さん 「私の研究と「ある日の私 - 研究室での実験風景」」  
福田 瑛乃さん 「私の研究と「ある日の私 - フィールド調査」」  
第2部 「覗いてみよう!生物のミクロな世界」 15時20分~16時20分  
果実に含まれる細胞、植物の病原体、池に棲む微生物たち、  
木材組織の細胞、卵子と精子の受精、赤潮を引き起こす藻類  
お問い合わせ先  
山形大学農学部学務担当(並原・三澤)  
TEL:0235-28-2808 E-mail:nogaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

「人文学部OGが語る日本近代文学研究」  
女性研究者福野拡大セミナー

日時：2010年11月2日（火）午後1時から午後2時30分まで

場所：人文学部一号館 102教室

講師：

新間 壱生（仙台文学館 学芸室長）  
【プロフィール】  
東北大学大学院文学研究科単位取得退学、修士（文学）  
専門領域：泉鏡花を中心とする日本近代文学、東北／宮城の地域文学

永井 麗（秋田工業高等専門学校 講師）

【プロフィール】  
名古屋大学大学院人間情報学研究科単位取得退学、修士（文学）  
専門領域：日本近代文学（岡本かの子）、ジェンダー研究

プログラム：

講師からご自身の日本近代文学研究の概要、研究者を志した動機などについてお話しいただき、その後、参加者との質疑応答を行う。

主催：山形大学人文学部

共催：山形大学男女共同参画推進室

**日本化学会東北支部地区講演会**

**次世代を担う女性研究者による未来予想図  
～元気な女子が世界を変える～**

日 時：平成22年11月19日(金) 13:30～16:30

場 所：山形大学理学部 3401講義室

地元に縁の深い新進気鋭の女性研究者の講演を通じて  
科学の面白さと可能性を肌で感じてみよう。

『放射線を利用した年代測定技術とその応用』  
山形大学理工学研究科 高橋 唯

『環境にやさしいエコタイヤ創り』  
住友ゴム工業株式会社 宮城ゆき乃

『藻類・プロテイストの多様な世界』  
筑波大学大学院生命環境科学研究科 助教 横山亜紀子

『数の国のアリス！～ようこそ不思議な数の世界へ～』  
仙台白百合学園高等学校 教諭 鈴呂智子

主 催：日本化学会東北支部  
共 催：山形大学理学部  
山形大学男女共同参画推進室  
山形県男女共同参画センター  
山形大学グリーン・サイエンスネットワーク

後 援：山形県教育委員会  
対 象：高校生、大学生、一般 \* \* 参加費は無 料です \* \*  
問合先：日本化学会代表正会員 大谷典正 Tel/Fax 023-628-4583

**目指せ！ Mademoiselle Seminar for Career Paths in Science**

**理系マドモワゼル!! 理系女子力UPセミナー**

13:30～15:30 山形大学工学部4号館 中示範C教室

①理系マドモワゼル講演会  
流れと界面が創る生体機能  
13:30～14:30 大島まり先生(東京大学)  
14:30～15:30 三浦佳子先生(九州大学)

女性研究者として第一線で活躍されている先生方の招待講演です。

日時 2011年1月19日(水) 13:30～19:00

②理系女子力UPセミナー  
理系女子ライフphotoコンテスト  
講演者 大島まり先生(東京大学)  
三浦佳子先生(九州大学)  
八塚京子先生(山形大学)  
日出櫻るり(PD)(山形大学)

カワイイ!! ステキ!!  
理系女子研究生活の魅力とは?!

16:00～17:00 山形大学工学部4号館 中示範C教室

③理系女子懇親会 ※男性の参加も歓迎します。  
会費 2,000円(学生500円)

17:30～19:00 山形大学工学部4号館 会議室

連絡先 山形大学工学部 機械システム工学科  
吉川英光研究室(工学部6号館411室)  
TEL/FAX: 023-628-4583  
E-mail: hienaga@yzymagis-u.ac.jp

	日 時	タ イ プ	内 容	結 果
人 文 学 部	2010 年 11月 2 日 (火)	人文学部 OG が語る 日本近代文学研究－女性研究者裾 野拡大セミ ナー	人文学部の卒業生で女性研究者として活躍中の方を講師とするセミナー。	参加者数：42名、(内訳 学生36名、教員4名、職員2名) 山形大学人文学部卒業生で研究者として活躍しておられる赤間亜生氏（仙台文学館 学芸室長）と水野麗氏（秋田工業高等専門学校講師）を講師に迎え、ご自身の日本近代文学研究の概要、研究者を志した動機などについて講演後、参加者との質疑応答を行った。
理 学 部	2010 年 9月 7 日 (火)	女性研究者 の裾野拡大 のための公 開講座及び パネルディ スカッショ ンーナノブ ランクトン 研究につい て－	高校生・大学生等を招待し、女性研究者の裾野拡大のため、国際的な研究の第一線で活躍している女性研究者からナノプランクトンの研究の基本から発展までを通じたパネルを用いて、研究の面白さなどを直に伝えてもらう。	参加者数：不明、講師：原田尚美（海洋研究開発機構）：女性研究者のライフサイクル 富田（萩野）恭子（岡山大学）：研究という仕事、Denise Kulhanek(米国国立科学財団ポスドク)：フィールドワークの楽しさ 他2名 女子高校生・大学生が主な対象者であるということで、それぞれの講師が自分自身の研究者になるまでの道のりを語った。大学進学での挫折が新たな出会いにつながったこと、就職の内定を断って大学院に進学したこと、南極観測船では男性200人中、女性1人だったことなどの話は高校生の関心を引きつけ、その後の質問も活発に行われた。
	2010 年 11月 19 日 (金)	「次世代を 担う女性研 究者による 未来予想図 ～元気な女 子が世界を 変える～」	山形に縁の深い新進気鋭の女性研究者による生き生きとした姿を通して、理系女子の可能性を認識する。	参加者数：115名、(内訳 高校生90名、高校教諭6名、大学生・院生11名、大学職員8名) 山形に縁の深い新進気鋭の女性研究者4名による生き生きとした講演（実習を含む）を通して、若い世代の女性に理系進路への可能性を再認識してもらう。県内女子高からの参加希望が、当初想定していた人数を遥かに超える程の反響があり、課外授業の一環としての開催となった。参加者の感想には、女性が活躍する時が来たことを実感したとの声が多く寄せられた。参加した女子高からは、次年度も是非とも開催して欲しいとの要望をいただいた。本学関係者にとっても、大学を巣立つ女性研究者の活躍ぶりに直接接することが出来たことは、女子学生への進路指導の参考となった。

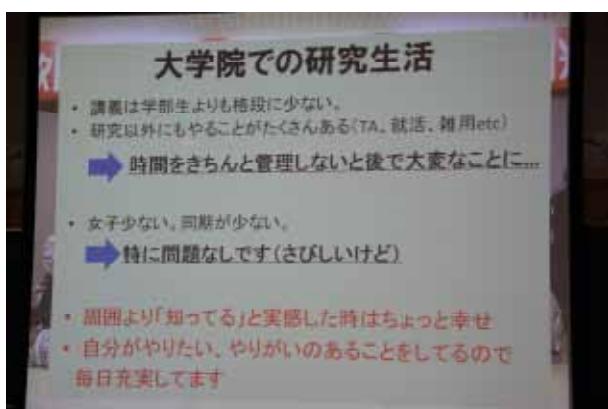
工学部	2011年 1月 19日 (水)	目指せ！理系マドモワゼル！～理系女子力up セミナー～	女子学生が肩肘張らずに研究をやっていけるモチベーションを作るため、現在活躍している新進気鋭の女性の先生や先輩方の研究等を伺い、参加者の皆さんで理系女子について考える。	参加者数：65名（内訳 高校生12人、大学生・院生38人、教職員15人、男性は1/3程度） 先生方の招待講演と、日常で撮影した写真を参加者に示しながらエピソードを紹介し、日常的に考えていることをお話ししていただくセミナーを開催した。 アンケート結果を見ると、参加者は招待講演とセミナーに楽しんで参加できたようで、「親近感が沸いた」「研究者についてのイメージが深まった」など、好意的な意見が多かった。問題点としては、セミナーの題目の一部に「女性研究者支援」など、少しでも女性のためのというニュアンスが含まれると、男子学生や男性教職員が参加しにくくなるようだ、ということだった。
農学部	2010年 11月 6日 (土)	大学院生に聞いてみよう！大学での研究生活って、どんな感じ？――女性研究者裾野拡大セミナーin 農学部 part 3	本学農学部への進学を検討している高校生および研究室配属前の前期学部学生を対象とし、農学研究への興味関心を高めることを目的とする。特に、本企画は、大学院への進学率の低い女子学生を念頭に置き、女子学生の修士課程への進学率の向上を目指す。	参加者数：60名程度（内訳：高校生・大学生、高校生保護者） 目的：大学院修士課程学生により研究室での学生生活を紹介することで、学部後期教育課程の雰囲気を理解し、農学研究への興味関心を高めること 第1部 農学部大学院修士学生(4名)による「大学での研究生活って、こんな感じ！」 第2部 視いてみよう！「生物のミクロな世界」 今回は司会進行も含め、学生AA主体で行った。実際に現在学んでいる修士学生による、自身の研究内容、生の研究生活、大学院に進学した経緯などのプレゼンテーションが、非常にわかりやすかった。今回のセミナーは、発表者や運営に関わったAA学生にとっては、一般の方に自分の関わっている仕事を説明するよい機会であり、勉強になったと考えられる。

## 女性研究者の裾野拡大のための公開講座及びパネルディスカッション

### ナノプランクトン研究について



大学院生に聞いてみよう！大学での研究生活って、どんな感じ？



### 目指せ！理系マドモワゼル！～理系女子力 up セミナー～



目指せ！理系マドモワゼル！～理系女子力 up セミナー～



人文学部 OG が語る日本近代文学研究



次世代を担う女性研究者による未来予想図～元気な女子が世界を変える～



## 4-2. 基盤教育「ウーマン・オブ・ヤマガタ」

これから社会の担い手である学生が、多方面で活躍する学内外の女性たちとの対話を通して自らのキャリア・ビジョンを描くことをねらいとして、主に学部の1年生を対象にした基盤教育授業を開講した。性別役割分担を見直し、男女とも仕事と生活の調和（ワークライフバランス）が保てる働き方ができる社会について考えた。

### 4-2-1. 平成22年度講師一覧

	月 日	講 師	所 属 等
1	10月12日	加藤 水希	山形銀行地域振興部経済調査グループ所属。今年3月「働く女性と女子大学生の交流会」を自主企画。
2	10月19日	加納 寛子	山形大学基盤教育院准教授。情報リテラシー・情報モラルを研究。ネットいじめ対策にも取り組む。
3	10月26日	新関さとみ	さとみの漬物講座企業組合理事長。平成22年度男女共同参画「女性のチャレンジ賞」(内閣府)受賞。
4	11月2日	鈴木 匡子	山形大学大学院医学系研究科主任教授。専門は高次脳機能障害学。脳損傷後の障害を分析・研究。
5	11月9日	高塚由美子	山形大学大学院理工学研究科助教。2003~2009年カリフォルニア大学で分子細胞生物学を研究。
6	11月16日	木村 松子	山形大学男女共同参画推進室チーフコーディネーター・准教授。専門は学校教育学。
7	11月30日	木村 直子	山形大学農学部生物資源学科准教授。卵の老化現象の解明や家禽類の雌雄産み分け技術等を研究。
8	12月7日	長谷見晶子	山形大学理学部地球環境学科教授。地震波形の特徴を利用した研究や震源分布を調査。
9	12月14日	齋藤由美子	山形県男女共同参画センター・チェリア企画係長。男女共同参画推進の様々な企画を立案。
10	1月11日	坂本 明美	山形大学地域教育文化学部附属教職研究総合センター准教授。教育方法学、特に「フレネ教育」を研究。
11	1月18日	高橋菜穂子	平成21年に国立ファーム株式会社 山形ガールズ農場(村山市大槻)を設立。

受講生は 23 名（女性 12 名、男性 11 名）、年齢は 18~21 歳で学部 1 年生が多い。受講動機として多いのは、男女共に「自分自身の考え方の幅が広がり人生に生かせる。」「自分が生きる参考にしたい。役に立つものが得られる。」であった。女性の中には、「女性の話を生で聞くことができる。人生観を聞いてみたい。」という期待も多くみられた。

講師の年代は、20 歳代から 50 歳代まで、未婚・既婚者が半々、育児経験者も半数である。学内研究者 7 名（全学部と基盤教育院から各 1 名）、学外者 4 名（企業勤務・起業家・海外青年協力隊経験者・農業経営者）である。現在、妊娠中という方もおられた。

主に、自身のキャリア形成過程について学生時代から今までを語っていることから、興味深く引き込まれる内容であった。全学部等の研究者から研究に関わる話があり、研究の面白さと同時に、挫折や困難も語られ、学生にとって共感できる話も多く聞かれた。学部 1 年生の中には、大学や学部の選択等に後悔や迷いを抱いている学生がいるが、講師の経験談に触発されて質問や感想という形でそれが出され、対談の中でアドバイスを受ける場面が何回かみられた。

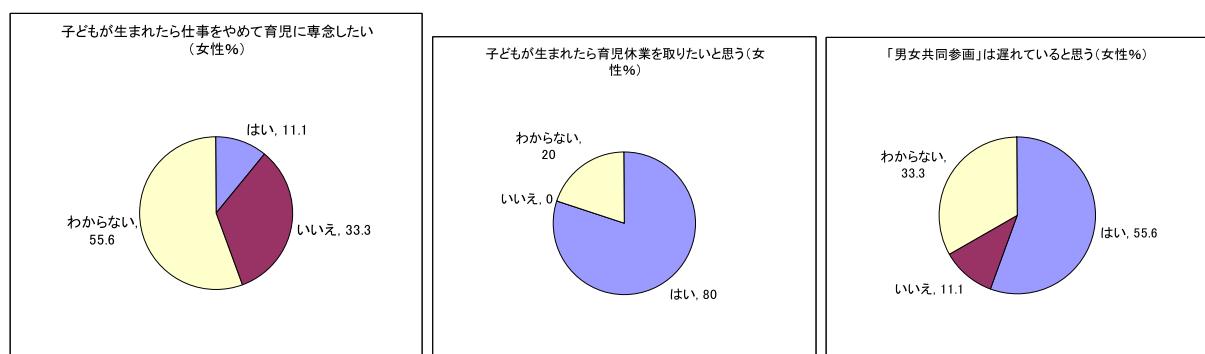
育児経験者から話を聞くことで、育児に対する思い込みがあったことに気づいた女子学生がいた。産休後の復帰のため、子どもを保育士に預けた時の安心感・解放感と職場に戻ってほっとしたこと、育児休業を取ろうとは思えなかつたことが語られた時、どうしてそんな気持ちになるのか質問が出された。それに対して育児不安が大きくうつに近かったという説明がなされた。

いろいろな分野で活躍している女性たちであるが、決してかけ離れた存在ではなく、同じような悩みや困難を経験しているが、総じて出会いが契機であったことや感謝が強調され、学生にとっても印象深いものとなっていた。

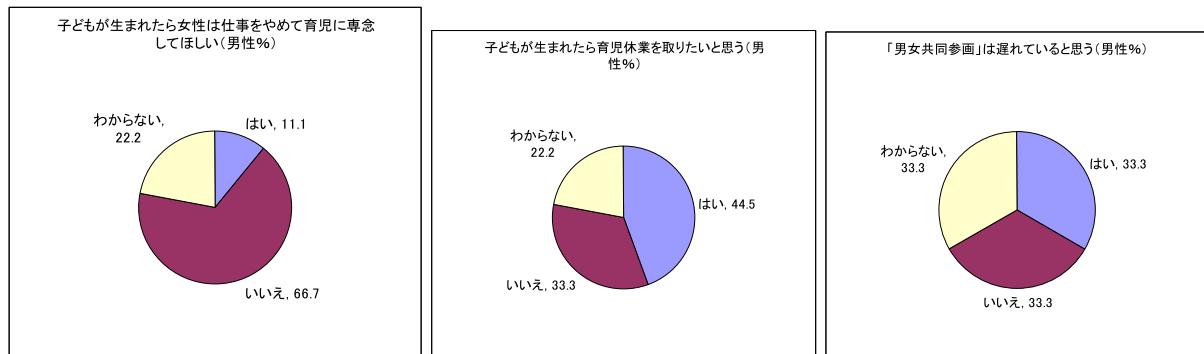
#### 4-2-1.受講後の受講生の意識

(23 人中アンケート回答：女性 10 人・男性 9 人、年齢：18~21 歳)

女性

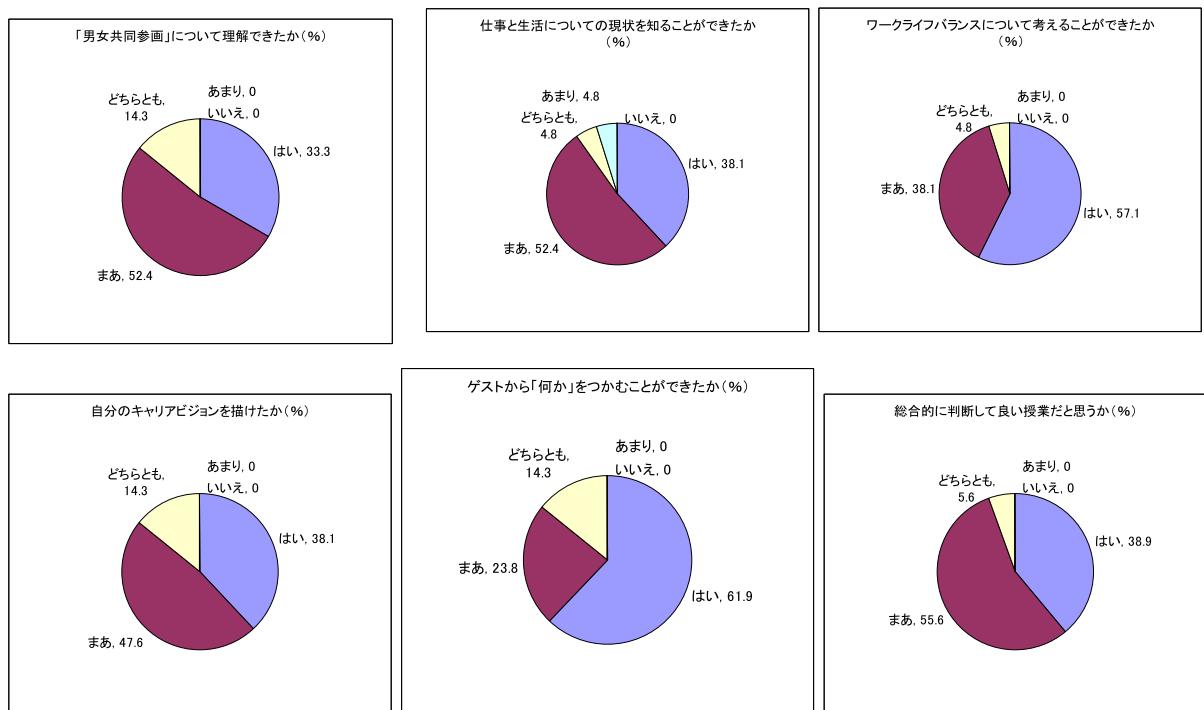


## 男性



「将来、結婚したいと思う」と答えたのは女性 70%、男性 89%で、全員が結婚後も働き続けたいと答えている。しかし、子どもが生まれたら、女性が辞職して育児に専念する、とする学生が男女共 1 割いた。女性の辞職・育児専念を否定する男性が多かったが、育児休業取得までは考えていない男性が過半数である。一方、女性の方は、仕事を続けるのか育児に専念するのか「わからない」という答えが多かった。設問にも女性の問題として想定しているという問題があるが、若い世代においても出産・育児と仕事の継続の問題が女性の方に偏って起きてしまいやすいことが示されているといえる。

### 4-2-3. 受講生からの授業評価（グラフの数値は男女合計したもの）



研究や仕事を続けてきた女性たちの経験、決して自分達とかけ離れたものではない悩みや喜びを聞くことで、「男女共同参画」や「ワークライフバランス」について共感的に考え、必要性を理解することができたといえる。